



北米ホーリネス教団  
オレンジ郡  
キリスト教会  
「週報」

2014年の努力目標

1. 朝の15分の祈りを大切に。
2. 1日2章の聖書日課に励む
3. 日ごとの写教に励む
4. 定期の祈り会に参加
4. 聖書研究・家庭集会への参加
5. 礼拝欠席の時は牧師に連絡を。

◎集会案内◎

日曜 礼拝 : 9:30~10:45am  
 コーヒー・アワー : 日曜日 10:45~11:15am  
 聖書の学び : 日曜日 11:15~12pm  
 みふみ会 : 水曜日 10am  
 定例祈禱会 : 水曜日 7:30pm  
 早天祈禱会 : 土曜日 7am  
 家庭集会 : 各地区に2箇所  
 牧師 : 杉村 幸 (日本語部)  
 : 益田デーロ (英語部)  
 電話 : (714) 827-6244 (教会)  
 : (714) 527-1456 (牧師館)  
 E-Mail : sugimura1950@gmail.com  
 教会ホームページ : www.occc.org  
 教会所在地 : 4872 Bishop St.  
 Cypress, CA 90630

石 叫

◎石叫■

「エマオの途上」

榎本保郎先生の『新約聖書一日一章』は私の愛読書の一つである。いつも先生の聖書読解の深さに感心をする。今回もエマオの途上の話がそうであった。ルカ福音書二十四章にエルサレムから七マイルほど離れたエマオという町に行く途上で、十字架の死から三日目によりがえった主イエスが、弟子のクレオパたちと一緒に歩く場面がある。聖書中、もっとも絵画的な場面の一つである。主は弟子たちと共に歩かれるのだが、「彼らの目がさえぎられて、イエスと認めることができなかった」とある。弟子なので、それまで主からねんごろに訓練を受けてきたのではあろうが、まさかその主が死から復活するとは思えなかったのだ。いくら本人と話していても、不信仰な彼らには主と認めることができなかつたのだ。イエスを主としない限り、心の目が開かれないからである。

弟子たちは近づいてきた人物が、その朝にエルサレムで起こった出来事を知らなかつたのに驚き、本人の前で、イエスについて説明する。彼は力ある預言者であり、イスラエルを救うのはこの人であろうと、望みをもっていたのだが、十字架について死んだ。ところが今朝、彼らの仲間の女性たちがイエスの墓に行ってみると御使いが現れ、「イエスは生きておられる」と告げたという。そのように説明をしたところ、イエスは、「ああ、愚かだ心鈍いため、預言者たちが説いたすべてのことを信じられない者たちよ。キリストは必ず、これらの苦難を受けて、その栄光に入るはずではなかつたのか」と言つて、旧約聖書全体にわたって、ご自身について記している事どもを説きあかされたのだつた。

やがてエマオに着いたが、夕暮れ時だったので、三人は一緒の宿に泊まることとした。夕食時に、聖書を教えてくれた人物がパンを取り、祝福してそれを裂いて渡しているうちに、ついに「彼らの眼が開けて」それがイエスだと分かつたのであつた。道々、イエスが聖書を説き明かしておられた時、彼らの「心が内に燃えた」とあるが、それは彼らにとつても初めての経験であつたのだろう。それまで彼のように聖書を説いてくれた人はいなかつたからだ。そこで彼らはイエスを彼らの師として仰ぎ（これが私の開眼の箇所）、パン裂きをお願いしたのであつた。パン裂きは主人の仕事だからだ。そのようにイエスを主と仰いだ時に、彼らの心の目が初めて開かれたのだつた。疑い深いトマスは復活の主に出会つて、「わが主よ、わが神よ」（ヨハネ二十・28）と叫んでいるが、イエスを主とすることが救いである。その主は今もあなたと共に歩んでおられる。

「オレンジ郡キリスト教会の歩み」

オレンジ郡キリスト教会は1977年に発足し、東洋宣教会・北米ホーリネス教団に所属するプロテスタント教会の一つです。北米ホーリネス教団は1921年に創立され、現在は日英両語合わせますと2000名を越える会員になります。

私たちの教会は18世紀に、英国で始まったジョンウエスレーによるメソジスト教会の流れを汲みます。そして他のプロテスタント教会同様、3世紀以来告白され続けてきた使徒信条を、私達の信仰告白と致します。

